

キタイ

時崎夏姫

ここ数日、数週間、数年。ずっと眠ることができなかった
あのタオルケットのような暖かさを感じた
涙が出るくらいお腹の中で星が跳ねたんだ
でも忘れていたんだよな。

目覚めたら何もかもなんだかよく見えなくなって
うまく吸って吐いてができなくなった
大切だと思っていたものも有害成分を含んで
0・5秒漂ってどこかに消えていった
どんだん僕を腐らせていく

僕はオレンジのおひさまがただ欲しかった
いつか手に入れられるんだろうなって
周りのみんなが消えてしまうくらいには
待ちました

これで全てが救われて
これで楽になれると
僕、信じていたはずなのに
振り返ればずっと後ろにいる僕みたいな奴より
僕はずいぶんとボロボロになって血だらけなんだ

「ああ、またやってしまったね。」